

臨地実習へ決意新た

川崎
医療短大
看護科2年
継灯式

川崎医療短大（倉敷市松島）で7日、継灯式があり、臨地実習を控えた看護科2年生が医療現場へ踏み出す決意を新たにした。

椿原彰夫学長や同科

教員が見守る中、約130人が一人ずつナイチンゲール像から採火し、キャンドルに火をともした。大澤優華さん（20）と丸谷菜月さん（20）が看護の心得を記

した「ナイチンゲール誓詞」を読み上げた。

看護科主任の岡田みどり教授は、新型コロナウイルス感染が広がる中で働く医療従事者への思いに触れながら、「大切なことは学ぶ姿勢と考える力。患者さまのサインをしっかり考え、心豊かな看護師を目指してほしい」と激励。代表して筆谷あすみさん（20）が「笑顔を絶やさず、患者さまを一番身近で守り支えたい」と決意表明した。

ナースキャップの廃止に伴い、同大は2013年、戴帽式から継灯式に変更。コロナ禍で前期は遠隔授業となり、式典は規模を縮小した。

（仁井名小百合）



ナイチンゲール像から採火する学生